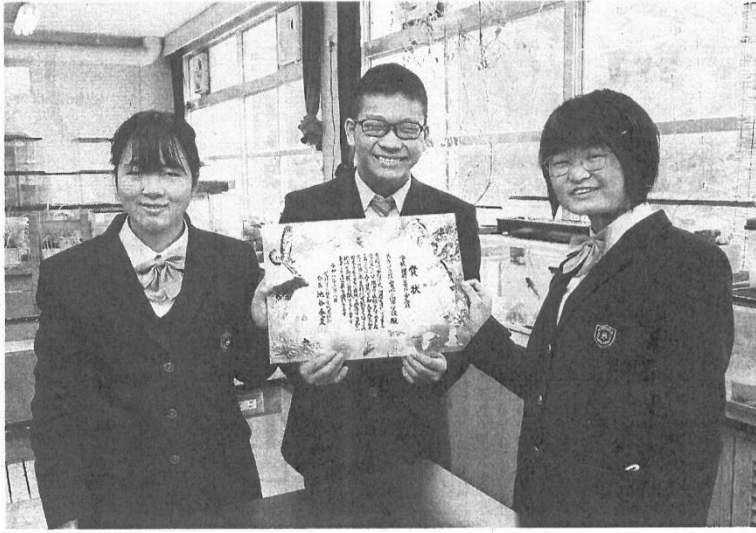


「ビオトープ賞」受賞

篠山東雲高 「維持管理し活用」評価 自然科学部

学校の実習田に造ったビオトープ（生物生息圃）を積極的に維持管理・活用している篠山東雲高校の自然科学部（3人）の活動が評価され、このほど、「全国学校・園庭ビオトープコンクール」（公益財団法人・日本生態系協会主催）で「学校・園庭ビオトープ賞」を受賞した。

同部員は、部長の（同、川西市立東谷中出
さん（2年、長坂中身）、
さん（1 保育所、幼稚園、小中学
出身）、 さん年、丹南中出身）
校、高校、大学など77学



「学校・園庭ビオトープ賞」受賞を喜ぶ篠山東雲高校自然科学部の部員たち。丹波篠山市福住で

「自然の奥深さ伝えたい」

同所は水はけが悪く、トラクターなどの機械が使いにくいため、水田にすむ生物を観察できる場所にしていくと、2017年、当時の同部員たちが約5カ月かけて、同校の実習田を転用して約400平方メートルの「ビオトープ」ののめいぎものランド」を造った。さまざまな生物がくらすよう、水深の浅い場所と深い場所、湿地、草むらなど変化に富んだ多様な環境をつくった。

山際にあるため、絶滅危惧種のモリアオガエルやシュレーゲルアオガエルの産卵場になっているほか、ドジョウやスジエビ、アカハライモリ、水生昆虫などが数多く生息しているという。

環境を維持するため、冬に泥上げを行い、観察

2026年3月22日
丹波新聞

しやすくするためにスギの間伐材や風倒木を利用して設置した栈橋の修繕などを行っている。

毎年夏にはビオトープを活用して、市内の小学生や都市部の子どもを対象とした自然観察会を開催。同部員が講師を務め、生き物の不思議や魅力、自然環境の大切さなどを伝えている。

3人は「代々受け継いできた小さな取り組みを2023年度にも同賞を受賞している。」

「これからも多くの子どもたちに自然の奥深さを（こころ）と積み重ねてきたことを評価してもらいたい」と喜び、「これからも多くの子どもたちに自然の奥深さを